

平成22年度全国学力・学習状況調査結果について

H22.7.30 秋田県教育委員会

概 観

- 4年連続して良好な状況にあるという結果を得ることができた。これは、家庭・地域・学校・大学等が、それぞれの役割と責任の下で子どもを育てようとする教育環境が充実しているなど、本県の安定した教育的土壌の成果であるにとらえている。
 - ・児童生徒の望ましい生活習慣・学習習慣←「わか杉っ子 学びの十か条」
 - ・各学校における授業改善の努力と一人一人へのきめ細かな指導
 - ・家庭や地域の教育力と協力
 - ・大学との協力・連携
- 県教育委員会では、この4年間の調査結果により、これまで歩んできた方向性や施策・事業等の有効性について、一定の評価をしている。特に、少人数学習推進事業、県独自の学習状況調査、各学校ごとに実施している共同研究体制による授業研究等は、大きな効果があったと考えている。
- 個別にデータをみると課題もある。今後、検証改善委員会を設置するなど詳細な分析を進め、「昨年度までの課題の改善状況」「今年度の調査から明らかになった課題」等について検討し、教育における継続的な検証改善サイクルの確立に努めていきたい。
- 今後も、本県の財産である教育的土壌を大切にし、教育を一層充実させていくためには、県民の皆様からこれまで以上に教育に対する関心をもっていただき、協力していただくことが肝要である。4年間の調査結果を県民の皆様と共有し、「教育立県あきた」を目指して取り組んでいきたい。

調査結果の活用

- 本年度の学力調査は、抽出調査と希望利用方式の2本立てになったが、本県の参加率は100%であった。県教育委員会では、自己採点のための採点基準や採点結果の集計・分析をするためのソフトウェアを作成し、提供してきた。既に、各学校においては、抽出調査対象校であっても自己採点をし、課題を明らかにしてその改善のために取り組んでいるところである。本調査を受けた学年の児童生徒に対しては、年度末までに課題となっている部分を確実に改善させた上で、進学・進級させることが大切であり、9月以降、改善のための方策を一層具体的にしていって取り組むことになる。
- 県教育委員会では、今回の結果を受け、県全体の成果と課題を明確にしながら、調査の活用による指導改善・充実のための取組を進めていくことになる。特に、教育における検証改善サイクルの確立については、国と県の学力調査及び高校入試を一体としてとらえたサイクルの確立に取り組んでいく。具体的には、全国学力調査で課題を明確にし、県学習状況調査で改善状況を把握していきたい。また、高校入試においても、「活用」に関する力が把握できるような問題を作成し、確かな学力を身に付けた児童生徒の育成に努めていく。

教科に関する調査の結果

◆ 概 要

- 全国の平均正答率を、小学校では各教科で5ポイント以上、中学校では各教科で4ポイント以上上回っており、おおむね良好な状況である。
- 小学校・中学校、国語、算数・数学のほとんどの問題において本県の平均正答率は全国平均を上回っている。
- 課題として取り組んできたB問題については、平均正答率で全国の状態を大きく上回る傾向にあり、知識・技能等の活用に重点を置いた授業改善が徐々に進んできていると判断できる。また、学年進行とともに学力を一層伸ばすことについても、良好な結果が示されている。
- 正答数分布は、全国に比べ正答数の多い層が厚く、反対に正答数の少ない層は薄くなっている。
- 無解答率は、国語、算数・数学ともにすべての問題で全国平均以下となっており、小学校ではすべての問題が、中学校では7割近くの問題が、全国は無解答率の半分以上となっている。
- すべての児童生徒に定着が求められ、正答率が十分でない問題については、早急に指導の改善を図り、一層の向上を目指す必要がある。

小学校6年生平均正答率

() 内は全国平均正答率との差

教 科	H 2 2	H 2 1	H 2 0	H 1 9
国 語 A(知識)	88.7~89.9 (+5.4~+6.6)	75.3 (+5.4)	74.4 (+9.0)	86.1 (+4.4)
国 語 B(活用)	83.9~85.7 (+6.1~+7.9)	60.4 (+9.9)	62.9 (+12.4)	69.0 (+7.0)
算 数 A(知識)	82.1~84.2 (+7.9~+10.0)	86.2 (+7.5)	80.7 (+8.5)	88.4 (+6.3)
算 数 B(活用)	57.8~60.3 (+8.5~+11.0)	63.7 (+8.9)	58.9 (+7.3)	68.6 (+5.0)

中学校3年生平均正答率

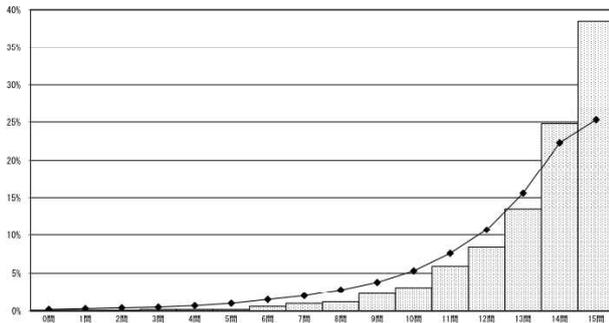
教 科	H 2 2	H 2 1	H 2 0	H 1 9
国 語 A(知識)	79.3~80.2 (+4.2~+5.1)	82.3 (+5.3)	78.6 (+5.0)	85.4 (+3.8)
国 語 B(活用)	71.0~72.4 (+5.7~+7.1)	81.8 (+7.3)	66.8 (+6.0)	77.0 (+5.0)
数 学 A(知識)	70.0~71.7 (+5.4~+7.1)	68.8 (+6.1)	70.1 (+7.0)	77.5 (+5.6)
数 学 B(活用)	49.0~50.9 (+5.7~+7.6)	63.4 (+6.5)	54.7 (+5.5)	65.3 (+4.7)

※H22年度の数値は、抽出調査における誤差も含めた「平均正答率の95%信頼区間」(例えば、88.7~89.9)で示している。

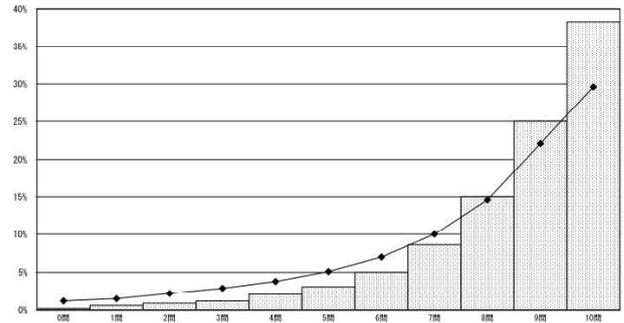
正答数ごとの分布（棒グラフ：秋田県

折れ線グラフ：全国）

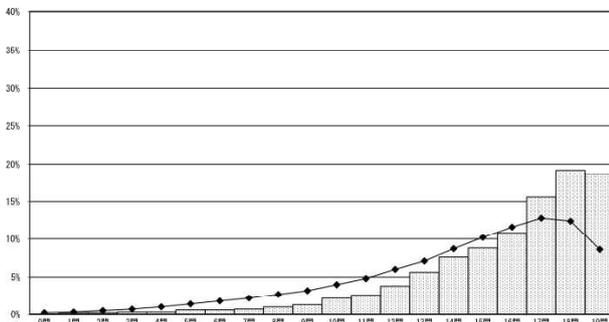
＜小学校国語 A＞



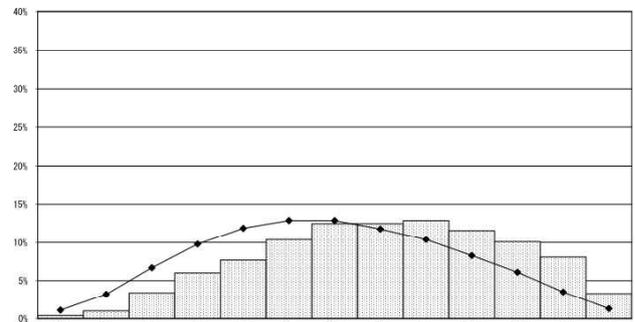
＜小学校国語 B＞



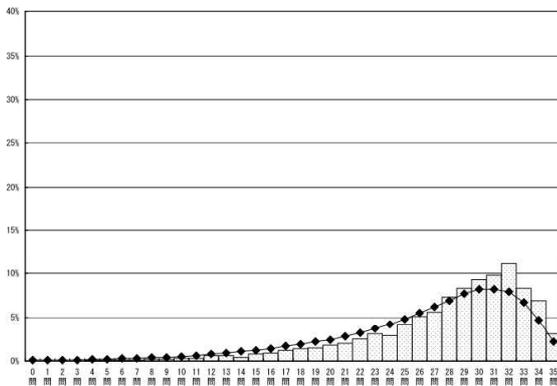
＜小学校算数 A＞



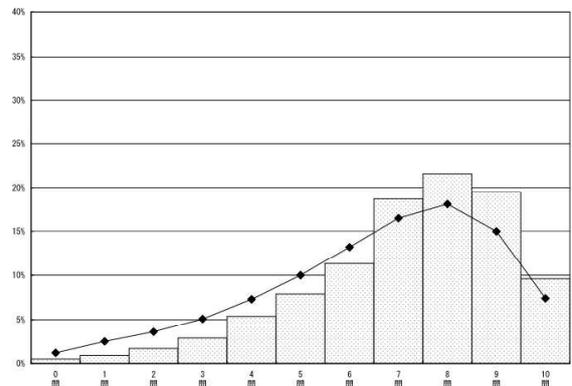
＜小学校算数 B＞



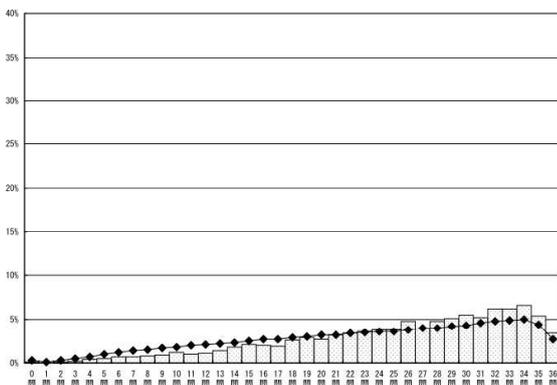
＜中学校国語 A＞



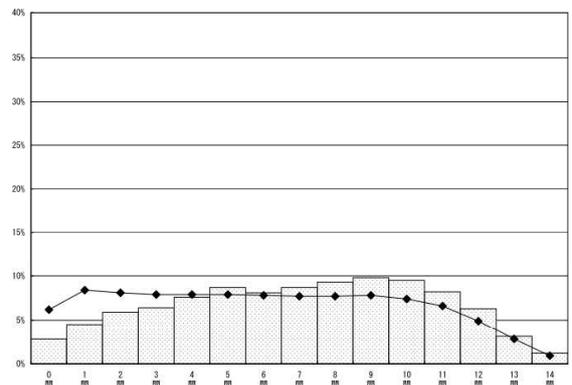
＜中学校国語 B＞



＜中学校数学 A＞



＜中学校数学 B＞



各教科の成果と課題

【国語】

- 全国平均との比較では、A問題よりB問題の方が若干差が大きい。
- 無解答率は、すべての問題で全国平均以下となっている。
- 小学校では「目的等に応じて適切に書き換えること」「理由を明確にして書くこと」に、中学校では「書いた文章を推敲すること」や敬語等の言語事項に課題がある。

●課題の例

	問題番号	平均正答率		設問の概要	出題の趣旨
		秋田県	全 国		
小 学 校	A 3	73.0	65.0	文章中の空欄に入る登場人物を本文中の言葉を使って書く	文学的な文章に登場する人物を相互に関係付けて読む
	A 4	73.6	60.3	児童会だよりの中に入る適切な内容をメモを基にして書く（二文を一文に書き換える）	文と文との意味のつながりを理解し、文の論理を考えて書く
	B 4	77.2	65.5	三つの時計の中から、条件に合ったものを選び、それを選んだ理由を書く	目的や意図に応じて、必要な情報を関係付けて読み、理由を明確にして説明する
中 学 校	A 4 二	48.9	41.2	一文を二文に分けて書く（二文めには主語を補う）	書いた文を読み返し、読みやすい分かりやすい文章にする
	A 10 三エ	51.9	52.8	適切な敬語を選択する（参観日には父が学級に来ると申しおりました）	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う
	B 3 二	39.8	35.5	「我が輩は猫である」の一部を読み、比喩的な表現で書かれた内容の意味を書く	文学的な文章の表現の仕方に注意して読み、内容について理解する

【算数・数学】

- 4年間の経年比較から、B問題について全国平均との差が広がっており、「活用」に係る力がついてきている。
- すべての問題において、正答率は全国を上回り、無解答率は全国を下回っている。
- 小学校では除法の意味理解、中学校では体積を求めることや一次関数の関係を式で表すことに課題がある。

●課題の例

	問題番号	平均正答率		設問の概要	出題の趣旨
		秋田県	全 国		
小 学 校	A 2 (1)	62.4	53.8	8mの重さが4kgの棒の1mの重さを求める式と答えを書く	商が1より小さくなる等分除（整数）÷（整数）の場面で、除法が用いられることを理解している
	A 2 (2)	64.2	40.2	2ℓのジュースを3等分したときの1つ分の量を分数で表す	数量を等分したときの1つ分を分数で表すことができることを理解している
	B 6 (2)	27.7	14.6	バスのドアが動く様子を表した図を見て、円周の一部と直線の長さの大小についての正しい記述を選び、判断のわけを書く	示された図や考えを基に、長さの大小を判断し、その判断の理由を記述できる
中 学 校	A 5 (4)	44.7	39.9	円柱の体積を求める式と答えを書く	円柱の体積の求め方を理解し、体積を求めることができる
	A 11 (3)	27.7	22.9	16cmの長さのひもで作る長方形の縦の長さとの横の長さの関係を式で表す	具体的な事象における一次関数の関係を式で表すことができる
	B 5 (2)	11.1	9.4	平行四辺形になることを証明するための根拠となる事柄を書く	事象を数学的に解釈し、成り立つ事柄の特徴を数学的な表現を用いて説明することができる

児童生徒質問紙調査の結果

◆ 概 要

- 平成19年度から4年連続して、生活習慣、学習習慣など、全体として望ましい習慣が定着している結果が示されている。
- 平成21年度に引き続き、本県の授業スタイルが児童生徒主体であることが示されている。
- 学習内容の活用について意識している児童生徒の割合が高い。
- 小・中学校ともに、4年連続して家の手伝いをしている児童生徒の割合が低い。

本県の結果と全国との差（「している」「どちらかといえばしている」など肯定的な回答）

	上回っている主な項目	小学校6年生		中学校3年生	
		秋田県	全国比	秋田県	全国比
生活習慣	普段（月～金曜日）、何時ごろに起きますか。	(7時より前に起きる) 92.8	+15.7	(7時より前に起きる) 83.8	+16.7
	普段（月～金曜日）、何時ごろに寝ますか。	(10時より前に寝る) 56.1	+12.3	(11時より前に寝る) 39.1	+ 6.7
	※平成19年度から4年連続して90%以上を示している主な項目 ・朝食を毎日食べている ・毎日、同じくらいの時刻に起きている ・ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある				
学習習慣	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日あたりどれくらい時間勉強をしますか。	26.3	(2時間以上) + 2.8	51.6	+13.4
	家で学校の授業の復習をしていますか。	86.8	+37.2	74.5	+31.0
	家で苦手な教科の勉強をしていますか。	72.2	+22.3	66.1	+22.3
	家でテストで間違えた問題について、間違えたところを後で勉強をしていますか。	73.0	+21.2	60.1	+20.4
授業	普段の授業では、自分の考えを発表する機会があたえられていると思いますか。	87.1	+ 5.6	85.1	+11.8
	普段の授業では、児童生徒の間に話し合う活動をよく行っていると思いますか。	85.0	+ 8.9	75.5	+20.2
	国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか。	73.8	+13.7	63.4	+17.6
	算数・数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか。	77.1	+12.5	44.7	+ 7.5
	国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫していますか。	67.6	+ 9.0	56.0	+13.7
	算数・数学の授業で公式やきまりを習うとき、その根拠を理解するようにしていますか。	87.3	+ 7.6	77.0	+ 8.9
他	今住んでいる地域の行事に参加していますか。	77.4	+15.8	39.9	+ 5.6

	下回っている主な項目	小学校6年生		中学校3年生	
		秋田県	全国比	秋田県	全国比
	家の手伝いをしていますか。	77.5	- 2.7	60.2	- 4.6

学校質問紙調査の結果

◆ 概 要

- 本県ではほとんどの学校が一斉読書に取り組んでいる。一斉読書の時間を設定していることと、平均無解答率との相関関係がみられることについて、平成21年度に文部科学省から報告されたとおりの結果となっている。
- 放課後や長期休業期間を利用した補充的な学習サポートを実施している割合が高い。家庭学習の課題の与え方については、学校全体で組織的に取り組んでいる。
- 目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業や、実生活との関連を図る授業など、学習した内容を活用することを意識した指導が行われている割合が高い。
- 学校図書館図書標準の達成率、学校司書等の配置率や計画的な学校図書館の利用などが低い。

本県の結果と全国との差（「よく行った」「どちらかといえばよく行った」など肯定的な回答）

上回っている主な項目	小学校 6 年生		中学校 3 年生	
	秋田県	全国比	秋田県	全国比
「朝読書」などの一斉読書の時間を設けましたか。	100.0	+10.6	97.1	+16.5
放課後を利用した補充的な学習サポートを実施しましたか。	61.3	+13.0	62.1	+13.7
長期休業期間を利用した補充的な学習サポートを実施していますか。	37.5	+13.0	71.1	+13.5
国語の指導として、補充的な学習の指導を行いましたか。	82.3	+12.7	82.5	+ 7.9
国語の指導として、目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業を行いましたか。	92.1	+ 3.4	88.5	+12.0
算数・数学の指導として、補充的な学習の指導を行いましたか。	97.1	+ 9.3	94.1	+ 7.5
算数・数学の指導として、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか。	81.2	+18.6	63.5	+11.9
国語の指導として、家庭学習の課題の与え方について、校内の職員で共通理解を図っていますか。	95.0	+14.2	82.3	+ 9.5
算数・数学の指導として、家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図っていますか。	95.1	+13.9	89.8	+17.0
学校では、児童生徒に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えるようにしていますか。〔新項目〕	99.0	+10.7	90.0	+ 5.9

下回っている主な項目	小学校 6 年生		中学校 3 年生	
	秋田県	全国比	秋田県	全国比
学校図書館図書標準（注）が達成されていますか。	40.8	-13.3	43.3	- 4.2
教員以外の職員で学校図書館に関する事務を担当する（いわゆる「学校司書」など）が置かれていますか。	24.9	-18.2	36.3	- 7.1
学校図書館を活用した授業を計画的に行っていますか。	66.3	-12.5	43.5	- 2.9

（注）学校図書館図書標準：公立の義務教育諸学校において、学校図書館の図書の整備を図る際の目標として学級数に応じて蔵書冊数が設定されている

全国学力・学習状況調査の活用

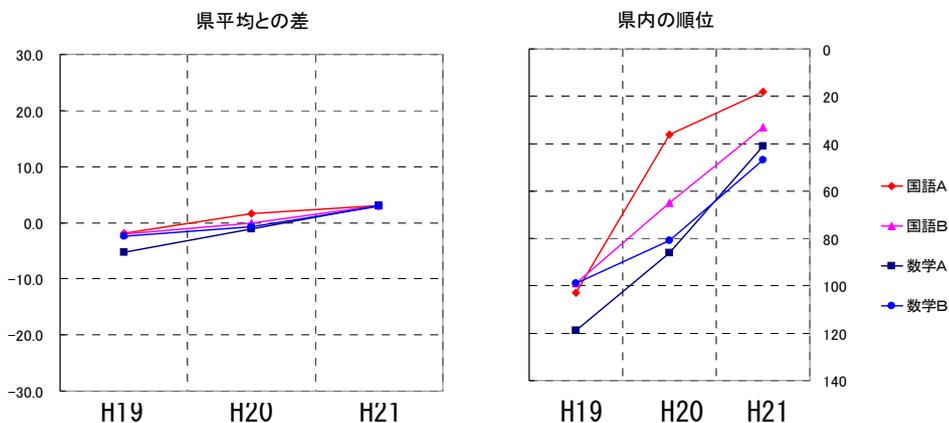
- ほとんどの学校が、調査結果を分析し、具体的な教育指導の改善に活用している。
- 大多数の学校が、調査結果について保護者や地域の人たちに対して公表や説明をしている。また、学力向上の取組について保護者や地域の人たちに対して働きかけを行っている。

◎学校質問紙調査より（「はい」と回答した割合）

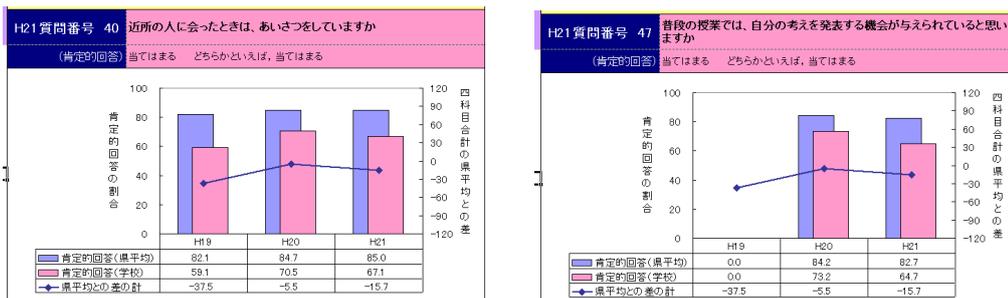
質問項目	小学校		中学校	
	秋田県	全国比	秋田県	全国比
全国学力・学習状況調査の結果を分析し、具体的な教育指導の改善に活用しましたか。	99.0	+ 5.1	97.1	+ 5.6
平成21年度全国学力・学習状況調査の自校の結果を調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で活用しましたか	96.1	+11.1	94.1	+12.6
平成21年度全国学力・学習状況調査の調査問題を授業の中で活用しましたか	99.0	+37.7	94.0	+39.8
平成21年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明を行いましたか。	94.1	+19.5	89.8	+18.5
平成21年度調査や学校評価の結果等を踏まえた学力向上の取組について、保護者や地域の人たちに対して働きかけを行いましたか。	85.1	+10.9	78.0	+11.2

- 県教育委員会は、学校や市町村教育委員会の要請に応じて、これまでの4年間の推移について様々なグラフ等を作成して提供する予定である。

A 中学校の例



B 中学校の例



県教育委員会の取り組みについて

◆ これまでの学力向上関連事業等

- 少人数学習推進事業（少人数学級、少人数授業）（H13～）
- 学習状況調査（H14～）
- 算数・数学学力向上推進事業（H17～）
- 教育専門監の配置（H17～、義務教育課はH18～）
- 学校教育の活性化に係るアンケート（H10～19）
- 科学する心を育む夢プラン事業（H12～20）
- 「英語とコンピュータが使える秋田の子ども」育成事業（H16～18）
- 学校・大学パートナーシップ事業（H17～19）
- 夢創造！！チャレンジ推進事業（H20・21）
- 読解力向上のための指針の作成（H20～）
- 秋田わか杉っ子 学びの十か条（H20～）
- 「わか杉思考コンテスト」の実施（H20～）
- 秋田わか杉っ子 学び充実事業（H20～）
 - ①検証改善委員会…全国学力・学習状況調査の結果分析と提言
 - ②学力向上県民フォーラムの開催

◆ 昨年度の主な取り組み

- 「小学校まなび・ふれあい充実事業」（H21～）
 - ・普通学級を6～7学級有し、かつ学級担任以外の教諭が配置されていない11の小規模小学校（推進校）に講師（臨時）を配置し、自由度の高い学校運営や教育課程の編成を可能とする。
 - [学習指導面]得意分野を生かした指導の充実
 - [生徒指導面]子どもと向き合う時間の拡充と複数の目による指導の充実
- 「先端科学体験事業」（H21）
 - ・児童生徒の夢や希望を育むとともに、理数系教科の学習意欲の向上を図り、理数系分野への進路について関心を高める。
 - ・科学技術の最先端で技術開発している国内企業や大学研究室への体験訪問及びノーベル賞受賞者などの講演会を実施する。
- 「チェンジあきた・教育プロジェクト事業（あきた教育GP）」（H21）
 - ・秋田の将来を担う人材の育成
 - ・小・中学校の特色ある教育プロジェクトの提案に対する財政補助

◆ 今年度の新規事業

- 「学力向上推進事業」（H22～）
 - ・学習状況調査事業、算数・数学学力向上推進事業、理科支援員等派遣事業、特色ある教育活動支援事業（チェンジあきた・教育プロジェクト事業）を整理、統合。